

要 旨

本稿の目的は、金融のグローバル化が進展した今日において、米国のような大国における資産バブルの発生及び崩壊が世界経済にもたらす影響を分析することにある。本稿は主に次の二つの疑問に答えようとしている。第一に、金融のグローバル化は、小国（米国のような大国以外の国）における資産バブルの発生頻度を高める可能性があるだろうか。第二に、ひとたび米国のような大国で資産バブルが発生した場合、そのバブル資産に各国が投資（バブル資産をキャッシュフローの源泉とする証券化商品等を購入）するならば、大国におけるバブルの発生及び崩壊から各国経済が受ける影響は、グローバル化以前（1980年代の日本における不動産バブルのような国内での資産バブル）と比較して大きなものになり得るだろうか、という二点である。本稿の主要な結論は以下の通りである。第一に、金融市場のグローバル化により、小国において、資産バブルが発生しやすくなることを理論的に明らかにした。第二に、資産バブルが小国の経済（特に金融市場の未発達な国）にもたらす影響は、金融市場のグローバル化以前に各国が経験したものと比較して大きくなることを示した。また、一定の条件下において、大国での資産バブルの崩壊後、自国での単独再建が不可能となる国が存在することも明らかにしている。本稿は、大国における資産バブルの発生及び崩壊が世界経済に与える影響を明らかにするため、金融市場の不完全性を考慮した一般均衡モデルを開放経済に拡張して分析を行っている。

JEL Classification: E32; E44; F43

Key words: Asset Bubbles ; Endogenous Growth ; Financial Frictions ; Open Economy